

八江蕨名所圖畫

四

070
45
2911

H22
C2



八江菽名所圖画肆之卷

目錄秋之部上

金谷天満宮 同圖 同祭禮之圖 長藏寺
 三江晴嵐 一木松荒神社 蓮正寺 橋本火橋
 蒲保之園 今宮八幡宮 徳隣寺 養學院
 隆景寺 秀岳院 満行寺 吉見橋 安養寺
 庚申坊 慶安橋 水車之園 田中荒神社
 同圖 金毘羅大権現社 法光院 同圖
 緒藏屋町 蓮池院 同圖 西光寺 一乘院

八江菽名所圖画肆之卷

明間寺 相場所之間 門客屋之圖 清光寺

同園 光善寺 光明坊 藤江落雁園 三千坊

瑞雲山報恩寺 瑞坊 法華寺 花松塚

塚夫神社 長壽寺 長壽寺 長壽寺

長壽寺 以上四拾五條

三好郡 三好郡 三好郡

三好郡 三好郡 三好郡

自撰屏二部上

八

八江荻名所圖画四之卷

木曾恒充 著述

秋之部上 山縣萬藏 補正

金谷天満宮社 椿町大城戸の所あり舊地ハ當所より少

後の方にて是を古天神といふ 古天神地横山氏某の居地にて前
園こまうま子の娘子天神の畫祠

を引けとるのちうとせよ 社傳云曰往昔天治二年の春鎌倉右府

將軍賴朝卿大日本總管領の時信濃水口郡高朝長門國守

兼職として當所へ下向せしに人民安全のためとて同

七月十三日筑州太宰府より勅請せし所にて一園一社乃

總鎮守とせし神社なりとて後改めて長門の國第三の

宮といへりとも中ニ就き廣類して久しかりしを享保年
間ニつゞり公より御勅請ありて本社田所御修造成てい
よしく結構を備へられり和の地
居り同別當ハ陽明山正燈院にて
本地佛十二面觀音臨家大照院ニ屬す當寺ハ始り藝州吉
田ニ在て知足院といふ夫より山口常榮寺の境内ニ遷り又
轉じて享保年中當社の別當となり

祭ノ神菅公の御本像ハ 泰嚴公の御守護神なりと云
祭禮ハ十月十五日より十六日ナリ此日神輿御旅所へ御
幸ありて湯立神樂舞等を執行り供奉のよしをい

くんは玉鉾を持てるられハ白幣を捧げるあり隨身華
美子ハ涼傘と花をかき輿に乗れり別當馬ニ跨り大行
司小行司或ハ平安湖の手廻備とて對管ニ行列を正し六
尺の奴子ハ肚高くのけて七五三を踏ちまするハ先歩
行の柱籠ハ傘傘回し軒覆舞の業其外市中の町より
あらし屋臺山車の色々善盡し美辰一装い行々名はす
り道路も耀くくよりひきまきまらるるハ實ニ太平の美
りて市中も興い計りらるる形勢なり

有拙川幸仁親王の真筆 同御
筆册

華表 類揚

天満宮

鳥居一基ハ御北平二十五組
一ノノ寄進ニシテ享保十八年ニ

拜殿ノ
隅ノ類

て浦

法教院宮ノ真跡

拜殿似松干ノ左平ノ柱ノ隅ノ類

高樓ノ隅ノ類

紗威樓

同御茶
二ノ門
ノ類
二五ノ寛文申
法教院ニ
御寄附ナリ

口表ニ甚得象

口又海鏡子

小柱ニ奉座

研一基

福地を評して生誕をたすけよと云へう云々
石ありておんまき色の夫御座ありたり
草舎一葉神ありていそちひれ枝ノ香う
いほ水の氷ニ遊りてて神降明を獲り百一ノ恩
む、福まお神宮の歌上の中使ふん々文法
初年十月十九日

龍仁是為法誌

菅原の研碁

車籠の庄ニあり
大長ノ研ノ碁

御判物寫

二行波と申すもくうと云うは
法教院ノ御判物寫
と云ふ御判物寫





其
 一
 其
 二

五
 其
 一
 其
 二



其
 二

其
 一
 其
 二

其三
御城下入口
大城戸の圖



其
御城下入口

八月廿八

治兵衛

丹波守

長列第三宮下備中造等より

仁光院判并高父何某等

遠物より裁利被遣高小

つる候より出候

天正十一年
七月廿日

尾花

大正十一年

太宰府大鳥居一丁の寫

吾家より仰せし書
その心は天の御心
多座年中御傳は
後一紙の傳
慶長三年三月廿六日
系四院系司場の南
大鳥居

永椿山長藏寺 同所より一丁くくり南よりあり濟家の禪

宗よりて天樹院より當寺開創を以て慶長用和尙と号し

初當寺ハ曹洞宗より二世信明座元慶長和尙より當宗より

本尊聖觀音ハ惠心僧都の作也むろ一ハ濁河一本松の所

ありを慶長年間うつさしとせ

福松雲院の
地と代り

觀音堂

本堂の前より本尊聖觀音ハ一丈二寸の
觀音堂よりて大元國香壇とつくりし傳也
門前とも
慶長三年二月十五日の傳書にて蓮臺の前は
大佛を祀てし
の殿を造りしは後奉詣人等中近を以て
此佛を祀りし
と云々を云
仙と云々

三江晴嵐 いろへハ江さきハ景カ一よりて金谷古天神

宮の所よりといひ傳へり







一本松荒神社

獨り洞あり社司佐伯氏奉祀す御神体ハ
木石の二像よりて東帝衣冠の御衣束之當社ニ宿り動
請せしものと云れ之傳記に於て詳し其儀の工ニ

書くよりハ元禄二年再興とあり

古史物語ニ宿儀を大光村といふ所ありと云ふも大光子

の内氏我以し時此一本松と大
明りて云くち止りてとて

龍橋山運正寺

椿町中程東側あり一向宗よりて安藝國吉

田郷光明坊小馬す本尊阿弥陀如来を安置以開山堂圓ハ

吉田の産よりて俗井上氏より社平の比より難爰しに光明

坊祐指を師より法り道ニをりより終り同國井上村より續

舎を開きて住居せり後慶長の末此地を賜ひて創宮すといハ

寺寶

懐紙一枚

龍井成龍ニ品親王の真跡

橋本大橋

橋本町と椿町の間に架す銘いも考へず

世俗橋本大橋

又いふ大橋

或ハ青苔橋鋪礎橋といへとは是れと證とも

りのをこす元和二年始りて架くといふ長四十八間とあり

ていち橋といふ水上ハ奥阿武郡山田村神田の内より出て流敷

をまはれ幾色ともくうつらうとて川島木鼓清し落合是より

て松本川と二つに分れて此川第ハ橋本より櫻江玉江を経て

終り海に入長第一の大阿たり川幅九百間余り有ぬへ



成田大橋と
 此の橋は、
 入江の舟を以て
 舟の
 仙舟と
 橋は
 長官



新井長橋は、
 村政豊吹笛、
 新井長橋、
 磐城國往來、
 磐城國、
 新井

十二
 大
 橋
 新
 井

新
 井
 長
 橋

伊豫八幡宮社 江ぬり中程あり富社の八幡五社の一なりて

大宮司河野氏奉祀す

祭神

應神天皇 三女神
仲良天皇 神功皇后

相殿

若見天神

此所見天神と云ふて余に誤謬ありきいし身謀と云へり若ありよの事
竊しり出現すくくく身謀と云ふは志の御城也山間所のみあり
其國より地を得しりて大河を以て城を築きしをせりけり時近事よ
社よりて此尊像を若見しり得て 則富社の納め奉りしと云ふ

社傳より曰往昔 洞春公伊豫國新居郡金子邑河合戦の時

此やろえ賊徒かかれをうんも討りうろくとて即て社より火を

放りせむいざれと忽ち焦土とちうとしんくも更一人の兵卒と

見えさうぐうきてはらやまりぬとて其日に空しく草を引せか



伊豫八幡宮社
大宮司河野氏奉祀す



慶宗推現堂

上野... 中野... 慶宗... 推現堂... 慶宗... 推現堂... 慶宗... 推現堂...

山伏... 仙... 徳... 徳...

徳... 徳... 徳... 徳...

五ノ人...

卯月... 宗...

黄梅山隆景寺 河津の本町より櫻江津口より...

窟より天樹院より馬ノ木尊釋迦如来脇士大徳普賢并之

佛土大宮の御所より開山八前真如西岩同相大和尚より之

聖始備後州三原に在り素米山巨真寺より元末小早川家

景代を菩提寺に隆景公の御霊牌を奉りてより以降則御名

を以て寺号より慶長年間當河より迂り又寛永年中御再

創ありたり

隆景公御画像 一幅 筆者詳し

上原山奇岳院 江戸より平安湖より...

古義の真言宗として満願寺に属す水尊と馬頭觀世音を安

住す此傳傳ハハ工塚慶の作ニシテ 關土に不動毘沙門をたて開山

の實玄法印とし小格備前國に在るときハ三教寺としひま

長白山元満寺ともいふと元永二年同寺田部山に遷しを興元公

の御普提所とすすめり小後慶長年中當所之地を賜ひ即て

御法号を以て寺の号とし天台宗と真言と轉せりしとを

寺賢明心法印實言春日孫山と名をれて 慶元公一ノ首の所身を鑑

華師堂本堂の五ノより 本再長壽仙聖徳太子御作して檀木の一椽を以て

津殿山満行寺 同所領す別満行寺館と稱し一向宗として光

秀岳院



明坊ニ属す本尊ニ阿弥陀を安置す間山祐博ハ俗称坪井
 玄蕃といへり中古天正の頃内府信長公の幕下より一ノ故
 ありて御官家ニ属し教度の念戦ニ勲功を著し一ノ高家傑
 をり後終ニ賢疑を輝て吉田の庄上殿山と云處に一字を宮
 みて春秋をいふも慶長中當所ニ来りて再建す所なり
 寺寶 法華経隨華功德品 一軸 堂の真筆ニ
 といひ作人

吉見橋 平安古馬場町又芳氏の角より中渡より出る蓮池
 の石よりをく其古吉見廣行住居せし舊地にて園池に
 架せし名残りなりといひ傳ふ 此の比所打石
 といひ傳ふ

高輝山安養寺

同所より一丁より西にあり淨土宗より長
 壽寺ニ属す本尊阿弥陀如来ハ佛工春日の作り所なり前山
 も立空接道和尚と云和尚根道ハ筑州博多の産ニ慶長九
 年當所ニ創りて三宇を建立し初め天長山安養寺といひ
 もと五世齊通和尚より今山号ニ改む又當寺ハ遊行上人
 圓通遊化のころ久火除め寺と定めしれりといひ

庚申坊 同所本町一丁目中程東の側より當寺ハ四宗 法相
 三論

大ニ 兼學の道場よりて飛速の荒波山四天王寺教田院ニ
 真ニ 屬す關山ハ及源法印より近比天台宗を尊ぶる者本尊と

新編 慶安橋

青面金剛の依りて弘法大師の作といふ傳記詳しき
 永禄年中の草創なりと云ふも新編山内三才集に
 慶安橋 田中社裏門より新堀よつて河の川に架す慶安
 同ふ此橋をのりしれり依て此号ありと云然らばと慶安
 中よりいふ新堀川を思はくはかきけ溝ありてを
 架すこゝ橋を慶安橋といひて後新堀川出来て所か
 けをれし橋より旧よりて名を負せり
 頃近う傍に水車を設くより世に水車筋のこ林す
 是れ一帯成主と云ふ人日是に此道を通はく竹城
 ありしに人より此橋よりてつとていふなり

水車の圖



水車は、水車を設くより、世に水車筋のこ林す、是れ一帯成主と云ふ人日是に此道を通はく竹城ありしに人より此橋よりてつとていふなり

田中荒神社 同所より東方一丁をくにあり世俗田中社といふ

又一本松荒神社といふさへつらへ當所より大松一本ありて枝

葉繁茂せしより終に地名もさなりきと

社司吉屋氏例祭は九月廿七日より廿八日までと相傳ふ當社と

いふへ江向地面の北よりありて真徳寺の鎮守神といふは五穀豊

饒守護神といふ當所へ迄坐る一畝あり即并殿本殿ともは公

しく修葺せしれり初吉屋氏の春日社の大宮司とて今伊豫社

の神職しるるに小南氏も春日の神職を譲りしよりわらうと

して當社を賜うらうとやと春日社の古語文を存せ傳記載

録

きて詳なりされは是より前の事を知りし社坊有 由

舊記

夫田中一本松荒神者蓋自往古此地に鎮坐五穀豊饒之神

徳無し而福祿掌焉命神也故春秋三寶大荒神子家之神道

口訣大則普於天地小則於人間毛髮之類悉是荒神之明德也

外高古山禰福内焉喜怒哀樂皆并無不靡者荒神之威徳

也崇敬正則荒神の恩徳則荒神怒神慮之所使也且境内

在植荷之神社此神福五穀之精神也振古於諸類此神夫嘗

不感徳以是祭事是之慢也 推時慶安二年庚寅八月三日

三十一 後 紀 傳 載 後

一本松

荒神社

世に田中社といふ

十五古山原の

白旗大旗舎建天

懸る山崎新宮

大田原三平時

行幸

定之御



本松
荒神社
世に田中社といふ
十五古山原の
白旗大旗舎建天
懸る山崎新宮
大田原三平時
行幸
定之御

18

世に田中社といふ

十五古山原の

白旗大旗舎建天

懸る山崎新宮

大田原三平時

行幸

定之御

世に田中社といふ



本松
荒神社
世に田中社といふ
十五古山原の
白旗大旗舎建天
懸る山崎新宮
大田原三平時
行幸
定之御

大般若經一部六百卷

三冊入其書七一〇十

為父母性生魚為現當圓滿修治也

建久三年七月日

入道西證

抑此經者從古歎應奉業夜當店春日宮安置

勸進入道康西沙跡

阿武郎身教在又之抄甲之內春日之宮大般若經田之事

合碑者 其如本寺の
寺町に在り

古彼經田者為高除春之宮在為所等進上者本新何之

領主不可有修方也無者天長地久之所祈禱任

先例不可相違此傳

長明十一年己亥三月廿日

三和

矩結

山田

泉底

春の字引書

安善寺

梅所社

本社の所

全昆羅大儀現社 新堀にて江戸屋横町あり

祭神ハ天狗の本像を安善相傳上當社持の因邊氏の鎮守

神宗...を尋瑞多しとて人皆驚き...こゝにて法光院を

...依初に社を遷管せり領主片河町々人集り一建立すと

法光院の真言寺なり

瑞現山法光院 古義の真言寺にて満願寺と馬子開山法即源

秀ふして本尊十一面觀世音の山城間八條村に住めり

康尚といふ人の作り所なり 康尚は美濃の國の康麻呂といふ人の子

一とて八幡大井の示現に云ふ仙傳を境 當寺は始れ山口氷上山の境

内よ在て大來坊と云ふり慶長年中當所へ遷して今の

寺と改む

新編
金尾神社
法光院



其二



南風宮
 金文庫
 推



南風宮
 金文庫
 推

二十五

客殿の角竪瑠璃山の三字の寶鏡寺の窟の真跡あり

學文
二傳
二子



御金ノツキ
は徳寺窟の御真筆にて
累下十條ノ山ノミヨウノ

新機屋下 ソツミの御代よりきん京都より織物師を召

されて御茶束より御能衣裳等を織りぬる所にて此
寺の残りしつらりたり

重砂山達池院 新堀田畑小路一乘院の北に併り京師淨華
院派の淨刹ありて本尊は阿彌陀如來を安置す關山の香

雪和齋より山相傳し和尚は豊後國の森大友氏の家は護摩津
留大藏之丞といひりあり文武の達者なり 大照公の后に應
し講諸御茶湯寺は御柳に屢出たりを其後江戸御在府
の駒森雪在江戸より一試聞かされ御て之の増上寺に修
學せしめし折は折屋形へも登上せしりていと所懸心
漸く三年を住て當寺より一軒舎を營と住居せしり
君たかく神卷より成りて行基を奉りて庭前を御
覽しむ折し池の邊りありてやうらうらを賞美させむは
やうて神卷を蓮池卷とを仰らんむら夫より正保年間當

蓮池院
一東院

蓮池院



蓮池院は、古くは蓮華の池ありて、
その池に蓮の花が咲く時、
僧侶が坐禅を修する所なり。
また、池のほとりには、
多くの松の木が植えられ、
静かなる環境を造り出している。
この寺は、多くの僧侶が修行する
所として知られており、
その歴史は古くは鎌倉時代
に遡るといわれている。



内記として安藝國吉田の産 洞春公御側より仕へ一人たりと
き初御弓町之地を賜ふ寛永の比當所より迂りて一寺を野
創りたりと云

醫王山一乘密院 長福寺と号し河畑小松にて新羅河岸北
角にあり古義の真言宗より清願寺と爲す初藝州吉田
にあり開山を真覺僧都と号し中興源政房有英は慶長年間
天樹公より御供して當地より清願寺に任職す其後萬治四
年に地を平安古より賜ひて一寺を建立す号て長福寺とい
ふ事と後延宝年中任職有華より寺を一乘院と改め地

もきと當所より迂り客殿本尊不動明王の依り智證大師の作
りて勝士の杉御羅勢多物あり

藥師堂 本堂の左よりあり本尊藥師如來の依り僧都の作りし棟札に云阿
良那板本平寺の一乘院堂に惟八僧無有其地宝二年月日棟札高
原入本街八上高原又本街

山野茶屋街とあり本尊也

萬松山明圓寺 先町相模屋呉服店の左に隣り一向宗よりして

藝州廣島明教寺と爲す開山の祐首字は越國と号す本尊阿

彌陀如來ハ御長二尺六寸の坐像あり 此本尊を善の寺にありて
行かざるまじしと云ふは傳説也

寺記に曰其初の藝 てこの堂は越前一棟なりとのりしつて敷原を
おしん得てを建し作り當所へ神志ありと云

州に在り鎮西派の神柱なり同國甲三邑高林坊住僧西

新城

相場所

延宝八年築横川
山奥至橋上平植松



長崎山崎町
大正八年築横川
山奥至橋上平植松
延宝八年築横川
山奥至橋上平植松

本城屋新



大正八年築横川
山奥至橋上平植松
延宝八年築横川
山奥至橋上平植松

三十三
本城屋新

願といふ所の徳川氏等の元 當寺に來り任職して宗風を改む

後慶長の中比當所にて建立せし所あり

寺宝 關山祐甫へ賜ふ所の繪首 一軸

御家屋 尾町の東詰にあり他國より使者等の來りしときの

客館あり

清光寺 西田町能谷丁に在り一向宗にして京都本

領寺の末利なり輝元公室清光院殿の御遺言により慶長

九年防州山口に創設せし關山ハ京師興正寺十九世准高上

入りて後十三年今の地に移さる

本尊 阿彌陀如来毎年十一月報恩講の時ハ宗徒の老若日

夜奉詣ひきり起すいと修りたり又門前の橋塀ハ延享二年

に其筋のゆかしを得て築きしりあり一寺は名譽といふ

へ

禿善寺 東田町にあり真宗にして本願寺の本派なり本尊

阿彌陀如来創建の年月詳ならずし山口姫山にあり

禪宗の一刹にして區王寺と号し元和年間改宗兼地に移す

寛永十年今の寺号に改むりし

光明坊 上五間町にあり一向宗にして本願寺の本派なり

御客屋



下町一丁目

本町一丁目

本尊阿彌陀如來ハ元小松寺ニありて平重盛卿の守本尊ト
以テ傳テ創建年月詳クナラズハ一ハ安藝國高田郡下小原
村ニあり慶長五年本師傳ニ並村一坂ニ移シ同九年今の
地を賜りて移轉せりと云

藤江茶雁 一ノハ八重トキハ景の一ノ一テ佐世屋敷の裏手
をいへりと云

三千坊 吉田町ニあり一向宗テ本願寺の末寺ナリ
本尊阿彌陀如來大同元年平城天皇御願ホリテ傳教大師
の弟子大壽坊トシ一ノハ一ノ同基ナリ法天正六年真宗ニ改

万慶長三年八月今の地ニ移轉せりと云

瑞雲山報恩寺 津守町ニあり津土宗智恩院末派ナリて常

念寺ニ爲テ本尊阿彌陀如來創建年月詳クナラズト云

徳永山寺 元正三年今の寺号ニ改むと云

鳩坊 志美渡中ニあり一向宗ナリて本願寺末派ナリ本尊

阿彌陀如來創建年月詳クナラズハ開基明源俗姓大場全權

頭景明住源州院北面の武士ナリて高祖親鸞上人の蓮華ト

テ一城州山科ニテ蓮華を治ひしナリ建武の亂ニ焼失ナリ

依テ滋谷興ニテ一字を建主ト興正寺境内六坊の

内其端ニ住すよりて端坊と号す派故ありて破却せしれ
慶長八年本願寺に願は六條の寺内ニ端坊を建立す十三
世明善に至り而城下一一字を建立せんことを願ひ即ち今
の地を賜ふりといふ
松原山法華寺 忠天頂町ニあり日蓮宗なりて防長三州法
華の第一座とす住僧ハ松原の中央にありてを以て山号と
なりといふ開基詳々ならず慶長八九年の比に創始す
相傳ふるに下総國中山法華經寺六世日興當國より
下り建立せしを以て其末派なりとて後京都本法寺を本

山とケセリとソム

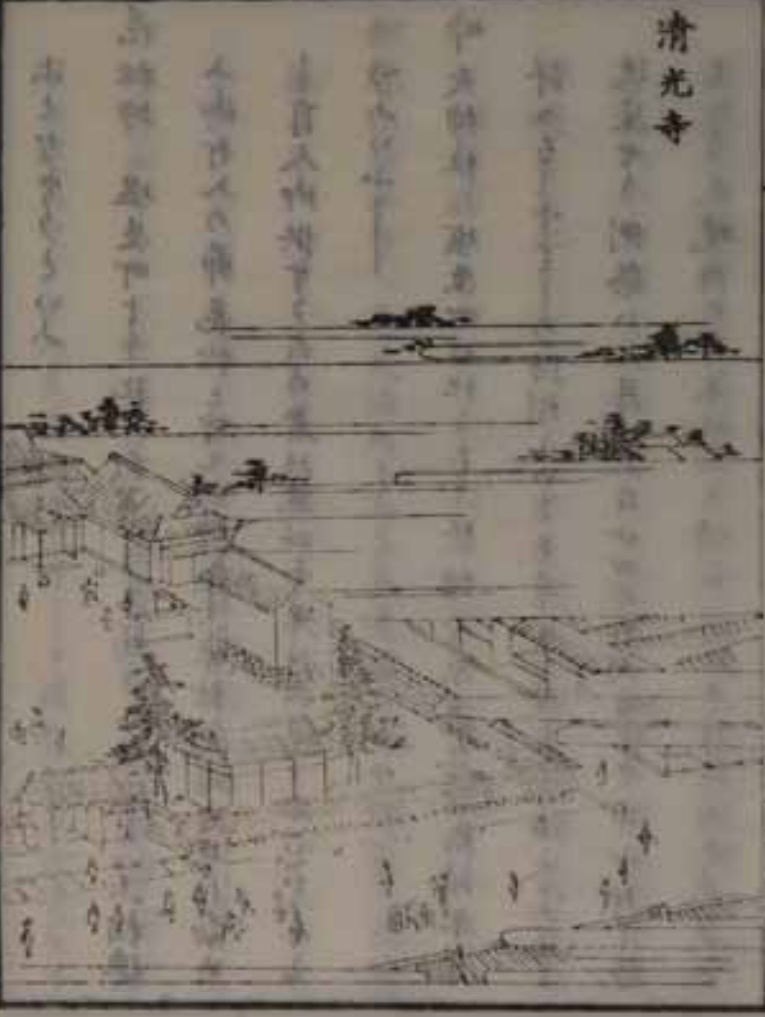
花松坪 塩屋町より北に向ふ少く小所なるよりをいふ相傳
小御打入の節花松と呼て地神三昧結座頭を兼ね勸め
一盲人御供せり古の者は宅此よりにけりといふにけり
つしよふ

峠天神社 塩屋町の北ニあり祭神菅原道真公勸請年月
詳ならずといふ防州山口ニありし慶長年中今の地ニ
遷座せり例祭ハ九月廿三日廿四日の兩日にて市中祭ニ跡
まつり又境内の井水ハ尤も清冽なりて遠近の人長夏



三十三間堂
 法華堂
 大雄殿
 講堂
 僧堂
 庫裏
 山門
 南無阿彌陀佛

清光寺



清光寺
 本願寺
 大雄殿
 講堂
 僧堂
 庫裏
 山門
 南無阿彌陀佛

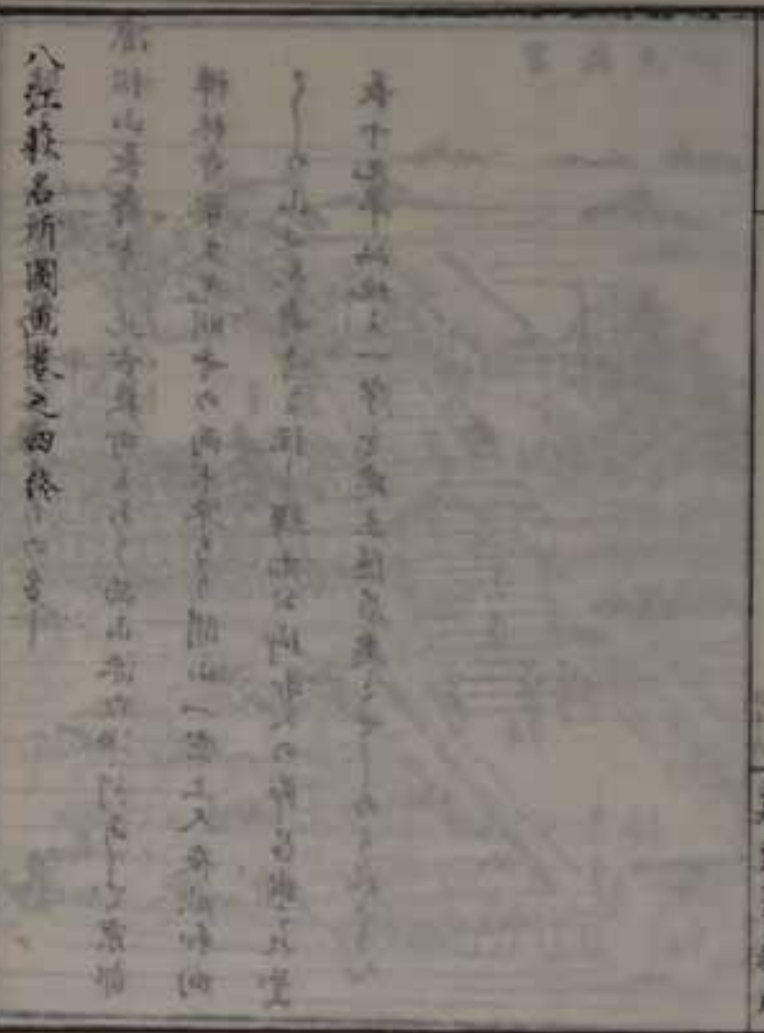
法華堂
 大雄殿
 講堂
 僧堂
 庫裏
 山門
 南無阿彌陀佛

峰天満宮



狭山にありて飲料に富むるの多し

涼松山長壽寺 北古狭町にあり西山派の源判りて京都
 禅林寺東生光明寺の西末涼より開山一空上人夜心和向
 くらめ山口長壽寺に住し輝元公御お入の節召出され云
 長十九年此地に一字を建立隱居處とてめらるる心



八江救名所圖畫卷之四終





秋市立秋図書館



111524302